

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
107-221	高等学校	国語科	古典探究	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
183 第一	古探 183-903	高等学校 改訂版 精選古典探究		

1. 編修の基本方針

1. 古典のすぐれた文章に触れることにより、言語感覚を磨き、知識と教養を身に付け、豊かな感性や情緒を育むことができるようにした。
2. 生徒が自主的・主体的に学習活動を行うことにより、思考力・判断力・表現力を養い、自発的・創造的な人間形成に進むことができるよう考慮した。
3. 対話的・協働的な学習活動を積み重ねることにより、さまざまな社会的要請に応え得る人間性の育成に役立てられるようにした。
4. 人間・生命・自然などに目を向けさせ、それらが我が国の伝統的な文化の中でどのように表現されてきたかを知ることができるように配慮した。
5. 歴史的・文化的背景を踏まえて我が国の伝統的な言語文化を捉え、生徒一人一人がその担い手であることを自覚させることを期した。

2. 対照表

図書構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
古文編	<ul style="list-style-type: none"> ・古典としてすぐれた作品を採録し、作品の鑑賞を通して、豊かな情操と道徳心を養うことができるよう配慮した（第1号）。 ・主として随筆・評論教材を通して、真理を探究する人間のさまざまなありようを示すことにより、生徒の人間性・社会性の涵養に働きかけられる題材を採録した（第1号）。 ・「古典のしるべ」を適宜設定し、興味・関心に応じて知識と教養を広げられるようにするとともに、生徒を読書へ誘うようにした（第1号）。 ・「参考図録」を適宜設定し、古文の読解に必要な知識を身に付けるとともに、伝統と文化に親しめるように配慮した（第1号・第5号）。 	<p>p. 12～260</p> <p>p. 22～33 p. 136～137 p. 218～222 p. 224～229 p. 248～260</p> <p>p. 20 p. 44 p. 56 p. 74 p. 90 p. 105～106 p. 120 p. 130 p. 153 p. 168 p. 216 p. 223 p. 230 p. 260</p> <p>p. 70～73 p. 88～89 p. 118～119</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・「言語活動」を通して、主体性を発揮して課題に取り組めるようにした（第2号）。 	<p>p. 14～15 p. 34 p. 49 p. 69 p. 116～117 p. 134 p. 151～152 p. 154 p. 167 p. 174～175 p. 176～179 p. 222 p. 234 p. 246</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・古典における人間関係や社会理念に深く関わる題材を採録し、生徒が現代にも共通する問題として考えを深められるようにした（第3号）。 	<p>p. 12～19 p. 22～33 p. 36～43 p. 58～68 p. 75～87 p. 92～99 p. 102～104 p. 136～142 p. 144～150 p. 156～166 p. 170～215 p. 232～245</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・古代の戦乱を取り上げた題材を採録し、人間の感情の普遍性を読み取ることによって、生徒が倫理や道徳の問題を現実にも即して考察できるよう配慮した（第4号）。 ・生命や自然に深く関わる題材を採録し、生命・自然を尊重する態度を養うとともに、生徒が自らの問題として考えを深めることができるよう配慮した（第4号）。 	<p>p. 100～101 p. 108～115</p> <p>p. 16～17 p. 22～23 p. 26～27 p. 32～33 p. 46～47 p. 50～51 p. 122～129 p. 131～133 p. 164～166</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・主として評論教材を通して、生徒が先人にならって言語文化に対する考えを深められるようにした（第5号）。 	<p>p. 96～99 p. 218～221 p. 224～229 p. 248～260</p>

	<ul style="list-style-type: none"> 各単元の扉に作品・作者などに関する解説欄を設けるとともに、「言語活動」において我が国の伝統的な文化を解説することにより、興味・関心を喚起できるようにした（第5号）。 	<p>p. 11 p. 21 p. 35 p. 45 p. 49 p. 57 p. 91 p. 107 p. 121 p. 134 p. 135 p. 143 p. 154 p. 155 p. 167 p. 169 p. 217 p. 231 p. 234 p. 246 p. 247</p>
漢文編	<ul style="list-style-type: none"> 古典としてすぐれた作品を採録し、作品の鑑賞を通して、豊かな情操と道徳心を養うことができるよう配慮した（第1号）。 主として思想教材を通して、真理を探究する人間のさまざまなありようを示すことによって、生徒の人間性・社会性の涵養に働きかけられる題材を採録した（第1号）。 「古典のしるべ」を適宜設定し、興味・関心に応じて知識と教養を広げられるようにするとともに、生徒を読書へ誘うようにした（第1号）。 「参考図録」を適宜設定し、漢文の読解に必要な知識を身に付けるとともに、伝統と文化に親しめるように配慮した（第1号・第5号）。 	<p>p. 262～391 p. 332～339 p. 374～379 p. 278 p. 330 p. 380 p. 392 p. 302～303</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 「言語活動」を通して、主体性を発揮して課題に取り組めるようにした（第2号）。 	<p>p. 266 p. 274～275 p. 286 p. 304 p. 312～313 p. 314～316 p. 327～329 p. 339 p. 340 p. 348 p. 358 p. 371～372</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 古典における人間関係や社会理念に深く関わる題材を採録し、生徒が現代にも共通する問題として考えを深められるようにした（第3号）。 	<p>p. 280～285 p. 310～311 p. 318～326 p. 350～357</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 古代の戦乱を取り上げた題材を採録し、人間の感情の普遍性を読み取ることによって、生徒が倫理や道徳の問題を現実在即して考察できるよう配慮した（第4号）。 生命や自然に深く関わる題材を採録し、生命・自然を尊重する態度を養うとともに、生徒が自らの問題として考えを深めることができるよう配慮した（第4号）。 	<p>p. 263 p. 268～273 p. 276～277 p. 288～301 p. 342～343 p. 382～391 p. 306～309 p. 346～347</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 主として故事・寓話教材を通して、生徒が先人にならって言語文化に対する考えを深められるようにした（第5号）。 各単元の扉に作品・作者などに関する解説欄を設けるとともに、「言語活動」において我が国の言語文化に影響を与えた中国の伝統的な文化を解説することにより、興味・関心を喚起できるようにした（第5号）。 	<p>p. 262～265 p. 261 p. 267 p. 279 p. 286 p. 287 p. 305 p. 314～316 p. 317 p. 331 p. 340 p. 341 p. 349 p. 359 p. 371 p. 373 p. 381</p>
資料編等	<ul style="list-style-type: none"> 資料編に「文語文法要覧」「漢文基本句形一覧」等を用意し、古典の読解に必要な知識を身に付けることができるようにした（第1号）。 資料編に「古典文学史年表」「中国文化史年表」を、見返・巻末に「図録」「地図」等を設けて写真・図版を掲載し、古典の読解に必要な知識を身に付けるとともに、伝統と文化に親しめるように配慮した（第1号・第5号）。 	<p>p. 406～425 見返 p. 394～405 巻末①～②⑤</p>

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- 第二条第3号及び、学校教育法第51条1号「国家及び社会の形成者として必要な資質を養うこと」、また、第3号「社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと」を踏まえ、各教材の最後に「学習の手引き」「言葉の手引き」といった課題を用意し、発表や話し合いを含む多様な学習活動を設定した。教材の内容や構成などについて理解を深め、自らの考えを的確に表現する資質・能力を養うとともに、生徒相互の意見交流を通じて、多角的で客観性のある批判的思考能力を養えるよう配慮した。
- 書体にユニバーサルデザインフォントを取り入れたほか、カラーユニバーサルデザインにも配慮し、すべての生徒にとって学びやすい紙面となるよう配慮した。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
107-221	高等学校	国語科	古典探究	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
183 第一	古探 183-903	高等学校 改訂版 精選古典探究		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

①単元構成・教材選定

- ・「言語文化」で育成された資質・能力をさらに推し進め、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすために、読むことの資質・能力を伸ばすための学びと、我が国の言語文化に対する理解を深めるための学びとが、それぞれ系統的に行えるように教材を配置した。
- ・教育現場の意見・要望を尊重し、学習指導の実態に即応できるよう、古文編と漢文編の合冊形態とした。それぞれの内は学習段階を考慮して二部構成とし、各部は文種(ジャンル)を基本にした単元構成とした。
- ・古文、漢文の教材の選定にあたっては、生徒の発達段階を考慮して、高校生として知っておくべき評価の定まった作品から、文種、長短、難易などに配慮しつつ厳選することを旨とした。
- ・日本漢詩を取り上げて、我が国の文化と中国の文化との関係について理解を深められるようにした。
- ・古文の評論や漢文の思想を取り上げて、古典の学習においても文学的文章に偏ることなく、論理的思考力を伸ばすことのできる教材を用意した。
- ・各単元の扉に、該当単元の教材で何を学ぶかを「学習のねらい」として示し、教材の意図を学習者全体で共有しながら学びに取り組むことができるようにした。→「生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図る」ための配慮。

②[知識及び技能]への対応

- ・古文で「言葉の手引き」を設定したり、「重要古語」(古文)や「基本句形」(漢文)を抽出したりして、「A 読むこと」の内容と関連づけながら、古語の意味や、文語・訓読のきまりなどの知識を深めるとともに、文脈の中で語感を磨き、語彙を豊かにできるようにした。
- ・「古典のしるべ」に、採録した古典に関連する、解説・現代語訳などの書籍を紹介し、主体的な読書へ導くことができるようにした。
- ・巻末に「資料編」を、巻頭・巻末に「図録」「地図」等を用意し、豊富な資料や写真・図版を掲載して、知識をより深めるための一助とした。

③[思考力、判断力、表現力等]への対応

- ・「A 読むこと」に関しては、脚注の「問」、および「学習の手引き」の課題設定によって、作品の内容理解を深め、興味を広げることができるようにした。
 - * 「問」は、本文を解釈するうえでポイントとなる箇所、内容理解を確認する目的で示した。
 - * 「学習の手引き」は、文章全体の構成や展開の把握、「学習のねらい」に沿った内容の解釈を基本として、生徒のものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりできる設問を用意し、発表したり話し合ったり文章にまとめたりといった活動ができるようにした。
- ・「学習の手引き」とは別に、「A 読むこと」の言語活動が十分行われることを企図して、「言語活動」を随所に設定し、生徒の主体的・対話的で深い学びを促した(エ【朗読】については「和歌・俳諧」の「学習の手引き」で対応した)。

ア【内容、形式】 p. 14～15 p. 69 p. 167 p. 176～179 p. 304

イ【読み比べ】 p. 34 p. 151～152 p. 174～175 p. 176～179 p. 222 p. 274～275 p. 286
p. 312～313 p. 327～329 p. 339 p. 348 p. 358 p. 371～372

ウ【創作】 p. 134 p. 314～316

オ【調査、報告】 p. 69 p. 154 p. 176～179 p. 234 p. 246 p. 266 p. 286

カ【言葉の変遷】 p. 49 p. 116～117

キ【名句・名言】 p. 340

2. 対照表

図書の構成・内容			学習指導要領の内容				該当箇所	配当 時数
			知識及び技能		思考力・表現力・判断力等			
部	単元	教材	(1)	(2)	読むこと(1)	読むこと(2)		
古文編・ 第I部	説話(一)	古今著聞集	ア・エ	イ	ア・イ	ア	p.12-p.13	
		[言語活動]小式部内侍と和泉式部		エ	キ	ア	p.14-p.15	
		沙石集	ア	イ	ア・イ・ウ	ア	p.16-p.17	
		今物語	ア	イ	ア・イ・ウ	ア	p.18-p.19	
		[古典のしるべ]仏教と世俗の伝承、そして説話文学の世界	イ	ア			p.20	
	随筆(一)	徒然草	ア・エ	ア・イ	ア・イ・ウ・オ・カ・キ	ア・イ	p.22-p.29	
		方丈記	ア・イ・エ	ア・イ・エ	ア・イ・ウ・オ・カ・キ	ア・イ・オ	p.30-p.33	
		[言語活動]無常観の表現	イ・エ	ア	イ・エ・オ・カ・キ・ク	イ	p.34	
	物語(一)	伊勢物語	ア・イ・エ	イ	ア・イ	ア	p.36-p.41	
		大和物語	ア・イ	イ	ア・イ・ウ	ア	p.42-p.43	
		[古典のしるべ]平安時代前期の物語文学	イ	ア			p.44	
	随筆(二)	枕草子	ア・イ	ア・イ・エ	ア・イ・オ・キ	ア・イ	p.46-p.55	
		[言語活動]古語と現代語を比較する	ア	ウ	ク	カ	p.49	
		[古典のしるべ]三大随筆の文学史とその多彩な世界	イ	ア			p.56	
	物語(二)	源氏物語	ア	イ	ア・イ	ア	p.58-p.68	
		[言語活動]『源氏物語』と政治		エ	エ・キ	ア・オ	p.69	
		[古典のしるべ]天皇・后妃の呼称		ア			p.74	
		大鏡	ア・イ	イ	ア・イ・ウ	ア	p.75-p.87	
	日記(一)	[古典のしるべ]歴史物語の登場	イ	ア			p.90	
		紫式部日記	ア	イ	イ・ウ	ア	p.92-p.95	
		更級日記	ア	イ	ア・イ	ア	p.96-p.99	
		建礼門院右京大夫集	ア	イ	ア・イ	ア	p.100-p.101	
		十六夜日記	ア・エ	イ・エ	ア・イ・ウ・エ	ア・イ	p.102-p.104	
	物語(三)	[古典のしるべ]「日記文学」の時代	イ	ア			p.105	
		平家物語	ア・イ・エ	イ	ア・イ・カ	ア	p.108-p.115	
		[言語活動]読み比べる・平家物語	イ	ア・イ・ウ・エ	エ・オ・キ	カ	p.116-p.117	
	和歌・俳諧	[古典のしるべ]軍記物語の成立と展開	イ	ア			p.120	
		万葉集	イ・エ	ア・イ	ア・イ	ア・エ	p.122-p.124	
古今和歌集		イ・エ	ア・イ	ア・イ	ア	p.125-p.127		
新古今和歌集		イ・エ	ア・イ	ア・イ	ア	p.128-p.129		
[古典のしるべ]和歌の歌風・特色の移り変わり		イ・エ	ア			p.130		
春夏秋冬		イ・エ	ア・イ	ア・イ	ア・エ	p.131-p.133		
古文編・ 第II部	説話(二)	[言語活動]切れ字を使って俳句を作る	エ	ア・イ	オ	ウ	p.134	
		発心集	ア	イ	ア・イ・カ	ア	p.136-p.137	
		今昔物語集	ア	イ	ア・イ	ア	p.138-p.139	
	随筆(三)	宇治拾遺物語	ア	イ	ア・イ	ア・ウ	p.140-p.142	
		枕草子	ア	ア・イ	ア・イ	ア	p.144-p.150	
		[言語活動]読み比べる・十訓抄	ア	ア・エ	イ・ウ・エ・キ・ク	イ	p.151-p.152	
		[古典のしるべ]摂関政治と女房、文学		ア・エ			p.153	
	日記(二)	[言語活動]貴族の生活と年中行事		ア	オ・ク	オ	p.154	
		蜻蛉日記	ア・イ	イ	イ・カ	ア	p.156-p.159	
		和泉式部日記	ア	イ	イ・カ	ア	p.160-p.163	
		讃岐典侍日記	ア	イ	ア・イ	ア	p.164-p.166	
		[言語活動]平安時代の結婚		ア	イ・エ・オ・カ・キ	ア	p.167	
	物語(四)	[古典のしるべ]平安時代の婚姻関係と恋愛		ア・エ			p.168	
		源氏物語	ア・エ	ア・イ	ア・イ	ア・イ	p.170-p.211	
		[言語活動]読み比べる・江談抄	ア	エ	ウ・エ・キ	イ	p.174-p.175	
		[言語活動]読み比べる・夕顔(江國香織)	エ	エ	ウ・キ	ア・イ・オ	p.176-p.179	
		とりかへばや物語	ア・エ	イ	ア・イ	ア	p.212-p.215	
		[古典のしるべ]『源氏物語』以降の物語	イ	ア			p.216	
	評論(一)	無名草子	ア・ウ	イ	ア・イ	ア	p.218-p.221	
		[言語活動]読み比べる・紫式部日記	ア	エ	キ	イ	p.222	
		[古典のしるべ]清少納言と紫式部		ア			p.223	
		俊頼髓脳	ア・ウ・エ	イ	ア・イ	ア	p.224-p.225	
		無名抄	ア	イ	ア・イ・ウ	ア	p.226-p.227	
		毎月抄	ア・エ	イ	ア・イ	ア	p.228-p.229	
		[古典のしるべ]多様な評論	イ	ア			p.230	
	物語(五)	大鏡	ア・ウ	ア・イ	ア・イ・ウ	ア	p.234-p.245	
		[言語活動]菅原道真の祟りを調べる		エ	キ	オ	p.234	
		[言語活動]貴族の呼び名―官職と位階―		ア	エ・オ	オ	p.246	
評論(二)	風姿花伝	ア	イ	ア・イ・カ	ア	p.248-p.250		
	去来抄	ア・エ	イ	ア・イ	ア	p.251-p.253		
	三冊子	ア・エ	イ	ア・イ	ア	p.254-p.255		
	難波土産	ア	イ	イ・オ・カ	ア	p.256-p.257		
	源氏物語玉の小櫛	ア	イ	ア・イ	ア	p.258-p.259		
	[古典のしるべ]もののはれ論の位置	エ	ア			p.260		

